

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2008年9月)

発表日2008年11月11日(火)

～引き続き輸入金額の増加により経常黒字幅が縮小～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 岩田 陽之助  
TEL : 03-5221-4525

|    |     | 原数値<br>経常収支 |        |        |        |       | 季調値<br>経常収支 |         |        |         |        |        |
|----|-----|-------------|--------|--------|--------|-------|-------------|---------|--------|---------|--------|--------|
|    |     | 貿易・サービス収支   |        |        |        | 所得収支  | 貿易・サービス収支   |         |        |         | 所得収支   |        |
|    |     | 貿易収支        | サービス収支 |        |        |       | 貿易収支        | サービス収支  |        |         |        |        |
|    |     | 前年比         | 前年比    | 前年比    | 前年差    | 前年比   | 前期比         | 前期比     | 前期比    | 前期差     | 前期比    |        |
| 07 | 6月  | 48.0        | 73.9   | 56.3   | 9      | ▲ 2.6 | ▲ 6.2       | ▲ 10.7  | ▲ 8.9  | 25      | ▲ 3.4  |        |
|    | 7月  | 4.3         | ▲ 30.7 | ▲ 19.4 | ▲ 155  | 24.6  | ▲ 8.0       | ▲ 8.3   | ▲ 4.8  | ▲ 162   | ▲ 6.1  |        |
|    | 8月  | 42.1        | 316.2  | 180.1  | ▲ 435  | 7.3   | 17.1        | 59.6    | 48.4   | ▲ 253   | ▲ 6.8  |        |
|    | 9月  | 42.5        | 77.1   | 59.9   | 378    | 16.0  | 2.3         | ▲ 12.9  | ▲ 17.7 | 924     | 17.0   |        |
|    | 10月 | 44.2        | 97.6   | 50.4   | 385    | 21.8  | 10.4        | 17.4    | 14.7   | 49      | 2.7    |        |
|    | 11月 | ▲ 2.3       | ▲ 16.8 | ▲ 12.1 | ▲ 343  | 15.2  | ▲ 18.1      | ▲ 23.9  | ▲ 13.5 | ▲ 962   | ▲ 11.3 |        |
|    | 12月 | ▲ 10.8      | ▲ 33.0 | ▲ 18.2 | ▲ 1164 | 19.4  | ▲ 13.9      | ▲ 49.0  | ▲ 33.3 | ▲ 545   | 10.8   |        |
|    | 08  | 1月          | 1.8    | 赤字     | ▲ 36.9 | ▲ 34  | 7.2         | 13.8    | 93.6   | 49.7    | 448    | ▲ 9.2  |
|    |     | 2月          | 4.8    | ▲ 9.2  | ▲ 7.0  | ▲ 168 | 14.3        | ▲ 24.2  | ▲ 72.0 | ▲ 54.8  | ▲ 96   | 5.6    |
|    |     | 3月          | ▲ 11.7 | ▲ 33.3 | ▲ 29.3 | ▲ 788 | 6.6         | 40.3    | 148.5  | 64.0    | 346    | 12.5   |
|    |     | 4月          | ▲ 29.4 | ▲ 59.1 | ▲ 41.9 | 1347  | ▲ 17.1      | ▲ 27.4  | ▲ 11.0 | ▲ 16.3  | 655    | ▲ 27.1 |
|    |     | 5月          | ▲ 6.8  | 16.2   | ▲ 0.1  | 687   | ▲ 12.5      | 31.2    | 44.2   | 27.5    | 438    | 20.4   |
| 6月 |     | ▲ 68.9      | ▲ 99.8 | ▲ 81.5 | ▲ 440  | 25.1  | ▲ 36.7      | ▲ 114.9 | ▲ 85.4 | ▲ 1259  | 9.3    |        |
| 7月 |     | ▲ 17.3      | ▲ 93.5 | ▲ 69.8 | 1133   | 9.6   | 22.5        | ▲ 302.9 | 182.8  | 1076    | ▲ 0.4  |        |
| 8月 |     | ▲ 52.5      | 赤字     | 赤字     | 1004   | ▲ 5.1 | ▲ 41.9      | 赤字      | 赤字     | 366     | ▲ 11.1 |        |
| 9月 |     | ▲ 48.8      | ▲ 94.0 | ▲ 86.0 | 92.0   | 4.7   | 7.5         | ▲ 17.3  | ▲ 63.2 | ▲ 803.0 | ▲ 1.3  |        |

(出所)財務省「国際収支状況」

## ○9月の経常黒字額は前年比▲48.8%

9月の経常黒字額は前年比▲48.8%の1兆4979億円(原数値)とほぼコンセンサス(同1兆4,000億円)通りの結果となった。所得収支については、証券投資収益が債券利子等の受け取り増加を主因に黒字幅が拡大した。貿易収支をみると、輸出は前年比+2.1%と微増したものの、輸入が原油をはじめとする原材料価格高騰に伴って前年比+32.7%と大幅に増加したことから、貿易収支は黒字幅を大きく縮小させた。このことを主因として、経常黒字は7ヶ月連続での前年割れとなった。

## ○貿易収支の黒字幅縮小が続く

貿易収支は前年比▲86.0%と黒字幅が大幅に縮小した。個別に見ると、輸出は前年比+2.1%と前月(同0.9%)同様小幅な増加にとどまった。対米国や対EUが引き続き低調に推移したことに加え、アジア向けも伸びが鈍化している。一方、輸入は価格高騰の続く原粗油輸入の拡大を背景に前年比+32.7%(前月同+20.2%)と先月に次ぐ過去3番目の高水準で推移し、輸出の伸びを上回ったため、貿易収支は大きく黒字幅を縮小させた。

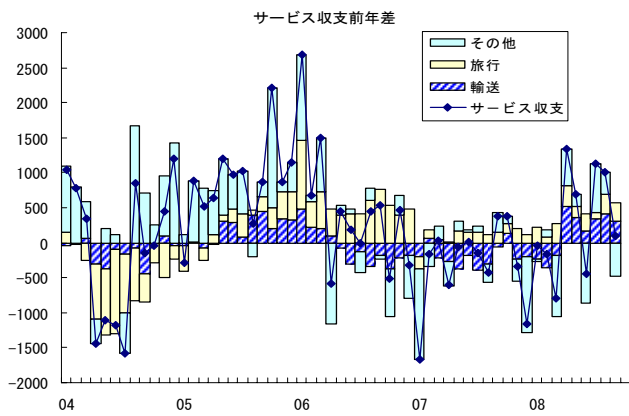
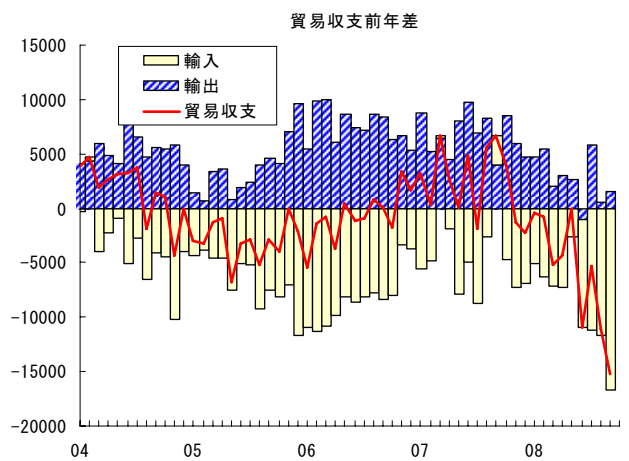
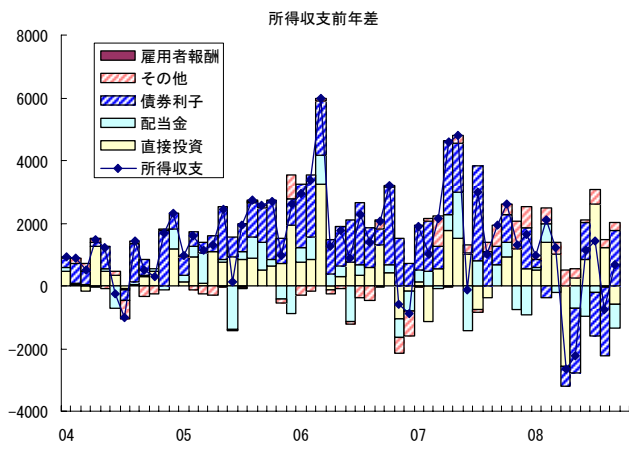
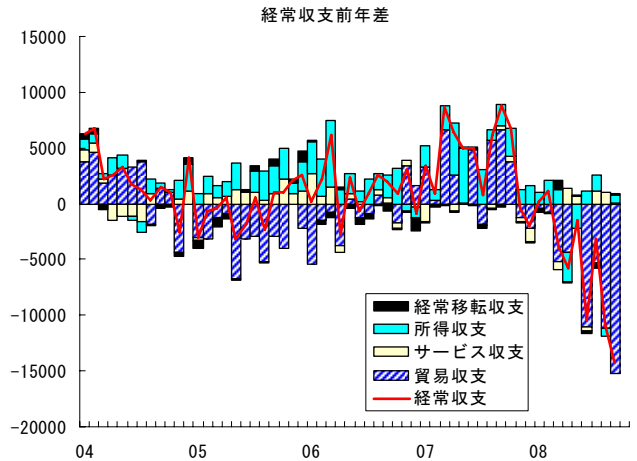
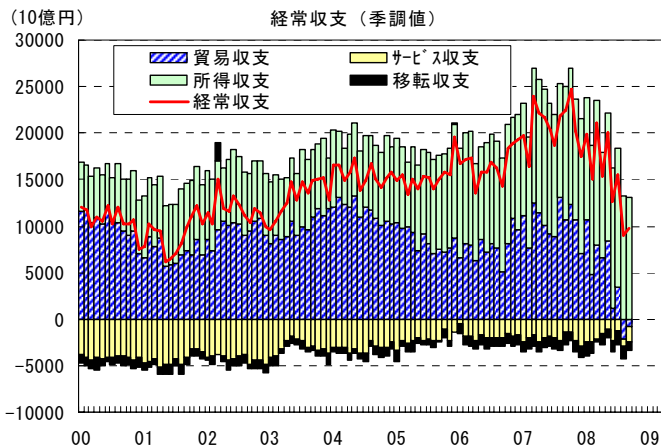
サービス収支は、3ヶ月連続で赤字幅が縮小した。「輸送」では、航空貨物運賃の支払い減少、海上貨物運賃の受取増加、「旅行」では、景気悪化による旅行客の減少から支払が減った。もっとも、「その他サービス」は、金融業の支払い増加を受けて黒字幅が縮小したため、全体としては赤字の縮小は小幅にとどまった。

所得収支の黒字額は前年比+4.7%と黒字幅が拡大した。直接投資からの再投資収益の受取は減少したものの、証券投資において債券利子の受取額が増加したことから、全体としては黒字幅が拡大した。

## ○原油価格下落は輸入を減らすが、輸出も低調に推移する可能性が高い

先行きを展望すると、所得収支については、株安、金利の低下、円高が続いているものの、対外資産残高の増加から横ばい圏内で推移するものと思われる。

貿易収支については、このところの大幅な黒字幅縮小には歯止めがかかるとと思われるが、前年比でのマイナスは続きそうだ。まず、輸入については、7月からの原油価格の下落が鍵となる。国内の需要低迷や生産調整の本格化などに加え、原油価格の下落が輸入価格に反映されることで、輸入金額の減少が見込まれる。一方、輸出については、先行きは減少していくと予想される。ここに来て米国やEUの景気減速感が鮮明になってきており、先行きの輸出は悪化する可能性が高い。これら先進国の低迷に加え、ここまで輸出を下支えしてきた新興国経済の内需縮小が輸出を更に下押しする可能性にも注意が必要だ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。